



楽しい絵手紙



八女市吉田 津村 信枝

大東寺絵手紙教室は、地域のふれあいサロンの一環として発足しました。が、現在は地域を問わず、15名、月に一回集まっています。私は中学の図工の時間以来の絵具との付き合いですが、大坪先生の指導のお陰で少しずつ、描けるようになりました。下手でも描いた絵ハガキを自分で見て楽しんでいきます。絵の話、料理、健康維持と、皆さんの話題は豊富です。会場を提供して下さっている大東寺、指導の先生、そして教室の皆さんに出会って感謝です。



県外を含む52名が、人を愛し、ふるさとを慈しみ、新しい年を力強く生きる決意を綴っています。世代を越えて心豊かに生きるヒントを与えてくれるものと思います。ぜひ一読下さい。

B6版118頁 1冊500円 送料120円
お申し込み (株)東兄弟 八女市祈祷院563
☎0943-24-2111

人生史サークル黄櫨の会様
新年おめでとうございます。かさねて、新春特別号ご発刊お喜び申し上げます。拙文まで載せていただきありがとうございます。家内に素直に感謝できたと思います。家族からも喜んでもらいました。

全編たいへん感銘深く読ませて頂きました。短い文章の背景に、いかに豊かで多彩な人生が潜められているか。生きることの意義、重さを感じました。

それにしても、私が高齢の部類と思いきや、多くの先輩の中には二十歳も上の方がおられ、いまだ社会貢献を考えておられるのには、励まされました。

また、ご当地の方々の文章からは、深く郷土を愛し、誇りにする気持ちが伝わって参ります。さすれば、「黄櫨」発刊以来17年余も続いておられるのだと思います。このような活動は、他にあまり例がないのではないのでしょうか。

本誌を読んでいた方々からは、たいへん勉強になったという感想が寄せられています。私も新年にふさわしい贈り物が出来たと、誇らしく思っています。ほんとうに、ありがとうございます。

機会がありましたら、またお誘いください。
貴会がますます発展されますことを、ご祈念申し上げます。

平成26年1月5日 福島県郡山市 勝間田 敏男

子育て奮闘記 Q&A ⑤

Q 8歳の男の子ですが、今も甘えてきます。いつまで、ベタベタ甘えさせたいのでしょうか。マザコンにならないか心配です。

A 甘えてきた時、つい「赤ちゃんじゃないんだから!」「甘えないで!」と厳しい一言を発してしまふことはないですか? こういう厳しい言葉は、子どもの気持ちを押し返して心の距離を離すことにもなりかねません。

いくつになっても親に甘えたい時もあります。

「みんなの子育て奮闘記」より抜粋。この本のご購入、お問い合わせは幸福保育園(筑後市) ☎0942-530175迄

健康万歳 ⑥

高齢社会の光と影

医療の充実、医療機器の著しい発達、予防医学の進歩、社会保障制度の充実などが高齢化時代に貢献してきました。最近では周りを囲っていても70台80台の元気に活躍している人は至って多く「人生80年」時代の到来と言えらる。この現象は全世界で見られるが、日本の場合は高齢化スピードが極めて速く、今後は全く経験したことのない時代に突入していくのは確かだ。

代は還暦、古希、喜寿、傘寿、米寿、卒寿などその都度祝つてきたが、今、還暦は老人の部類にも入らず、古希も稀ならずだ。反面、長寿社会には逃れられない「老」の重荷がある。数々の老病(老人病症候群)と向き合わねばならなくなったのも事実だ。その一つである認知症も他人ごとではなくなってきた。症状が良くならず進行の一途を辿るだけに余計に厄介だ。しかも誰でも罹る可能性がある。脳器質に変化を来すアルツハイマー病が最も多く認知症の約半

数を占めるが他にも色々な原因で起りこり症状も多彩だ。80歳以上になれば3〜4人に1人に見られるようになり。単なる意識レベル低下だけであれば周りに迷惑もかけないが、に迷惑もかけないが、妄想、暴力・暴言、徘徊、失禁、漏便などの周辺症状が酷くなると家族で面倒が見きれず施設の厄介にならねばならない。認知を遅らせる薬もあるが今の所効果は定かではない。社会や家族がどう付き合っていくのかが大きな課題となっている。健康長寿は望むところだが、この厄介な「負」の面も直視しなければならぬ。

最後に美を追求し、美を愛し続けた利休に私は尋ねたい。たった一日しか咲かないムクゲの花は一瞬だから美しい。彼女は死んだからこそ永遠に美しいのであって、彼女が死なずに利休と結ばれ結婚でもしていたら、美しいままに心に残ることはなかったのではないかと。どんなに美しい女性も、長年一緒にいれば醜さも業も欲も全てが見え出す。つまり、美しいものでなくなると。その時も同じように愛したのだろうか。茶道が生まれたのだろうか。見た目だけの美は悲しい。どこかでそう感じる私は年を重ねて純粋さを無くしたのか。本当に美しいものは、そうした長い年月の日常にあるような気がするのだ。

館蔵近世絵画名品展

前期 2月25日~4月6日
後期 4月8日~5月18日
会場 九州国立博物館
九博がこれまでに収集してきた江戸時代の絵画を一挙ご紹介する展覧会です。近年発見され、高い評価を集める「南蛮屏風」や「群童遊戯図屏風」など、九博の「顔」である名品の数々を、心ゆくまでお楽しみください。
観覧料 420円※4月1日より430円に改定予定 大学生130円
高校生以下、18歳未満および満70歳以上は無料



百花図屏風(右隻) 山本宗川筆
江戸時代・18世紀
展示期間: 前期(2/25~4/6)

吹き

利休にたずねよ

映画「利休にたずねよ」を見た。美しいものに惹かれると古壁すらも美しく見える。と、利休は美しいものに妥協せず、美しいものを尊んだ。茶室、茶道具、茶花、侘び寂び。歴史上の千利休の人生に加えて、物語は茶道に進む以前の若い頃の利休に移る。さらわれてきた高麗女性の美しさに利休は心を奪われた。彼女を救うべく一緒に逃亡を図る。追い詰められた海辺の小屋で彼女と最後の時を過ごす利休は、「捕まるくらいなら死にたい」と言う彼女と心中を図る。しかし、毒の入った抹茶を先に飲んだ彼女は死ぬが、利休は死ぬなかつた。当時のその出来事を利休は一生心に刻んで生きる。彼女からもらった香合は命を引換えにしても誰にも渡さず、彼女を想い続けた。永遠に心に残る美しいものとして……。

林 榮一

森 志穂